

60分でわかる旧約聖書(27) 「ダニエル書」

1. はじめに

(1) ダニエル書の位置づけ

- ①ヘブル語聖書では、第2区分の預言者には含まれていない。
- ②第3区分の諸書(Writings)に含まれている。
- ③この書の中では、ダニエルは預言者と呼ばれていない。
- ④しかし、主イエスはダニエルを預言者と呼んでおられる。

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

(2) 著者ダニエル

- ①同時代の預言者エゼキエルは、ダニエルを義人と呼んでいる。
 - *ノア、ダニエル、ヨブが並んで登場する(エゼ14:14、20)。
- ②エゼキエルは、ダニエルを知恵ある者として紹介している(エゼ28:3)。
- ③家族関係についてはほとんど知られていない。
 - *ユダ部族の属する貴族の生まれである(1:3、6)。
 - *心身ともに優れている(1:4)。
- ④ネブカデネザルによって連行されたのは、前605年であった。
- ⑤ペルシヤの王クロスの第3年(前536年)には、まだ生きていた(10:1)。
 - *彼の活動は70年前後にも及んだ。

(3) ダニエル書の文学形式

- ①聖書の中の最初の黙示文学である。
 - *黙示=「アポカリプシス」(ギリシア語)=「アポカリプス」(英語)
 - *覆いを取る、啓示などの意味がある。
 - *聖書全体が神の啓示であるが、啓示の様態が特殊なものを黙示と呼ぶ。
- ②黙示文学の特徴
 - *神の幻を見た者が、その内容を書き記す。
 - *象徴(シンボル) やしるし(サイン) が、多用される。
 - *通常は、神の民イスラエルの将来に関する啓示である。
 - *他の預言書では韻文が用いられるが、黙示文学では散文が用いられる。
- ③他の黙示文学
 - *エゼ37~48
 - *ゼカ1:7~7:8
 - *黙示録

④黙示文学の解釈

- *主観的解釈を慎む。
- *聖書が聖書を解釈するという原則を常に意識する。
- *厳密な聖書研究をしなければ、黙示文学の解釈は不可能である。

(4) ダニエル書の言語

- ①1:1~2:4aは、ヘブル語で書かれている。
- ②2:4b~7:28は、アラム語で書かれている。
- ③8~12章は、ヘブル語で書かれている。

④その理由

- *ヘブル語は、契約の民イスラエルの言語である。
- *アラム語は、当時の共通語である(異邦人の言語)。
- *ダニエル書には、2つの強調点がある。
- *異邦人諸国に対する神の計画(アラム語で書かれている)
- *契約の民イスラエルに対する神の計画(ヘブル語で書かれている)

2. アウトライン

(1) ダニエル書の要約

- ①1章:バビロン捕囚
- ②2~4章:巨大な像の幻
- ③5~7章:壁に書かれた文字
- ④8~12章:将来の御国の幻

(2) ダニエル書の目的

- ①献身の勧め
- ②異邦人諸国に対する神の主権
- ③契約の民に対する神の忠実さ

ダニエル書の内容について学ぶ。

I. ダニエル書の要約

1. 1章:バビロン捕囚

(1) バビロン軍によるエルサレム征服

- ①ユダの王エホヤキムの第3年、ネブカデネザルが神殿を略奪した。
- ②王は、王族か貴族の少年を数人選んでバビロンに連行した。
- ③その中に、ダニエルと3人の友人たちが含まれていた。

Dan 1:7 宦官の長は彼らにほかの名をつけ、ダニエルにはベルテシャツアル、ハナヌヤにはシャデラク、ミシャエルにはメシャク、アザルヤにはアベデ・ネゴと名をつけた。

- (2) 少年たちは、汚れを避けるために、王が提供するごちそうを食べなかった。
- ①彼らは、ベジタリアンになった(主食は穀物である)。
 - ②その結果、王のごちそうを食べる少年たちよりも、顔色がよくなった。

- (3) 彼らは、神の助けによって、王の宮廷で仕えることになった。

Dan 1:19 王が彼らと話してみると、みなのうちでだれもダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤに並ぶ者はなかった。そこで彼らは王に仕えることになった。

Dan 1:20 王が彼らに尋ねてみると、知恵と悟りのあらゆる面で、彼らは国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっているということがわかった。

2. 2～4章：巨大な像の幻

- (1) ネブカデネザルは、巨大な像の夢を見た(2章)。

- ①ダニエルだけがそれを言い当て、解き明かしをすることができた。
- ②この像は、将来起こる異邦人の帝国を預言したものであった。

- (2) ネブカデネザルは、自分の像を造り、それを拝むように命じた(3章)。

- ①シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、それを拒否した。
- ②彼らは、7倍熱くした炉の中に投げ込まれた。
- ③炉の中に第4の者が現れ、彼らを守った。

- (3) 神は、ネブカデネザルの傲慢を裁かれた(4章)。

- ①ネブカデネザルは、獣のようになった。

Dan 4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

- ②正気に戻ったとき、神をほめたたえた。

3. 5～7章：壁に書かれた文字

- (1) ネブカデネザルの孫ベルシャツアルは、エルサレムの神殿から略奪してきた器を、宴会のために用いた(5章)。

- ①突然、人間の指が現れ、宮廷の壁に文字を書いた。
- ②それは神からの裁きのメッセージであった。
- ③ダニエルだけが、その文字を読み解くことができた。

④ベルシャツアルは殺され、メディア人ダリヨスはその国を受け継いだ。

(2) ダニエルは、ダリヨス王に祈願するように命じられた(6章)。

①ダニエルは真の神に祈ったので、獅子の穴に投げ込まれた。

②王は、愚かな禁令を制定したことを悔いた。

③ダニエルは、天使によって守られた。

(3) ダニエルは、4頭の獣の幻を見た(7章)。

①バビロン、メド・ペルシヤ、ギリシア、帝国主義の国(ローマ)

②「人の子のような方」が到来し、御国を建てた。

4. 8～12章：将来の御国の幻

(1) 雄羊と雄山羊の幻(8章)

①将来の帝国の預言

(2) 70週の預言(9章)

①メシアの到来と死がいつになるかの預言が与えられた。

②イスラエルと7年の契約を結ぶ反キリストの到来。

③7年の中間で契約が破棄される。

④後半の3年半が終わると、神の大いなる裁きが行われる。

⑤天使がダニエルにこの幻の解釈を与える。

(3) イスラエルの将来に関する預言(10～12章)

II. ダニエル書の目的

1. 献身の勧め

(1) 1章に記された内容は、捕囚の地にあっぴいかに生きるべきかを教えている。

①神は、いかなる状況下にあっぴいも、ご自身の民を忘れてはいない。

②これは、捕囚民にとって励ましとなった。

(2) ダニエルとヤコブの息子のヨセフは、似ている。

①異郷において、神に忠実であった。

②高い地位に上げられた。

③神の助けによって、夢や幻を解き明かした。

2. 異邦人諸国に対する神の主権

(1) ダニ2章と7章は、世界の覇権国の変遷の預言である。

- ①神は、異邦人の帝国を支配しておられる。
- ②神の歴史のゴールは、メシア的王国である。

(2) ルカは、「異邦人の時」という言葉を使っている。

Luk 21:24 人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

- ①再臨のメシアが、エルサレムから世界を統治するまでは、異邦人の時が続く。
- ②異邦人は、イスラエルの民をどう扱うかについて注意する必要がある。

3. 契約の民に対する神の忠実さ

(1) イスラエルの民は、不従順のゆえにバビロン捕囚を経験した。

- ①しかし、捕囚の地にあっても、神は契約の民を守られた。

(2) ダニエル書は、メシア的王国におけるイスラエルの祝福を預言している。

- ①私たちは、新しい契約の民である。
- ②今は、神の計画に基づく過去と未来に挟まれた「今」である。
- ③歴史のゴールから、「今」を見ることを学ぼう。